

<第21回調査>

2011年2月28日

【本調査の目的】

2009年6月の第1回調査を皮切りに、(株)外為どっとコムは、口座開設者のお客様を対象として、「投資動向等に関するアンケート調査」を毎月定期的を実施しておりましたが、2010年8月の第15回調査より、その名称を「外為短期投資動向調査(略称:外為短観)」に改めました。本レポートは、同調査の結果に基づき、(株)外為どっとコム総合研究所がその一部を取りまとめるという形で対外的に公表するものです。

近年の外国為替市場において、本邦の外国為替保証金取引への関心が強まっているのは周知の通りですが、その実像を把握するのに必要な統計データ等の整備は、既存のマクロ経済データや金融関連データなどに比べて、遅れているのが実情です。今後こうした調査を継続的に実施することで、時系列で比較した個人投資家層の相場感の変化や投資家属性別の投資動向の特徴などを精査し、当社の調査研究活動の深化につなげるとともに、その一部を社会に還元することが、本調査の目的です。

また、本調査におきましては、国内外の国政選挙など、市場参加者が注目する各種イベント前後の時期に、不定期のアンケート調査の結果も公表いたします。定点観測の調査結果と合わせて、ご参考にして頂ければ幸いです。

【調査実施期間】

2011年2月15日(火)13:00~2011年2月22日(火)13:00

※毎月中旬から下旬にかけての1週間を調査期間としています。

【調査対象】

(株)外為どっとコムの『外貨ネクスト』に口座を開設のお客様層

【調査方法】

(株)外為どっとコムの取引画面内にアンケートを公開。

今回の有効回答数は、741件。

※必要項目を全て入力して回答して頂いたお客様を「有効回答数」としました。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

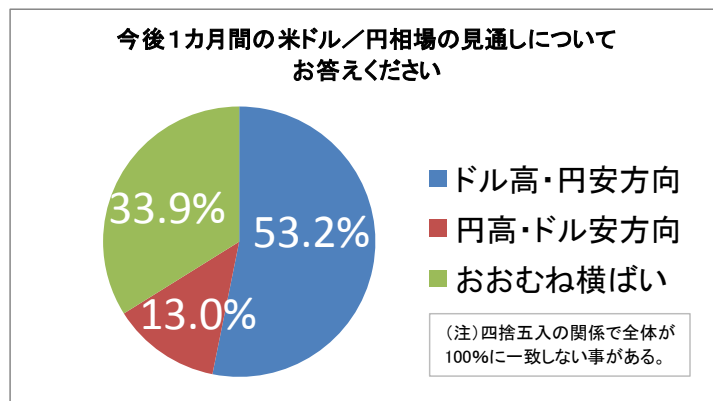
Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【第21回調査結果略報:ドル高・円安予想が急拡大】

問1:今後1カ月間の米ドル/円相場の見通しについてお答えください

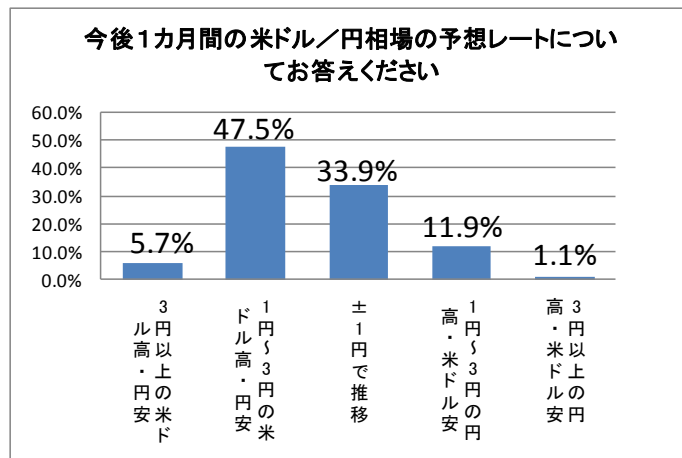
「今後1ヶ月間のドル円相場見通し」については、「ドル高・円安方向」と答えた割合が53.2%であったのに対し、「円高・ドル安方向」と答えた割合が13.0%となった。この結果、「ドル円予想DI」は+40.2%ポイントとなり、前回調査の+9.3%ポイントに比べDIのプラス幅は大きく拡大している。調査期間中のドル円相場は概ね83円台で推移したが、序盤には、83.96円と一時約2カ月ぶりの高値を付けた事で長く続いた三角もちあいの上値抵抗線を上抜けるなど、テクニカル分析からも上昇のサインが見られた。調査期間の前週に顕著となった米国景気の回復期待による日米金利差拡大も手伝って、機動的に相場見直しを入れ替えるFX個人投資家の間に、ドル強気のムードが急速に広がったようだ。

※過去のドル円予想DIの推移はP8-9に掲載。



問2:今後1カ月間の米ドル/円相場の予想レートについてお答えください

「今後1ヶ月間のドル円相場の予想レート」については、「1円～3円の米ドル高・円安」が47.5%と最も多く、次いで、「±1円で推移」が33.9%、「1円～3円の円高・米ドル安」が11.9%、「3円以上の米ドル高・円安」が5.7%、「3円以上の円高・米ドル安」が1.1%の順になった。ヒストグラムの形状は、ドル高・円安方向に大きく傾いており、問1で「ドル高・円安」を予想する向きが、「ドル安・円高」予想を大きく上回った結果と整合的と言える。また、「1円～3円の米ドル高・円安」と答えた割合が最も高い事から、ドル強気派の中でも比較的穏やかなドル高・円安を予想する向きが多い事が伺える。

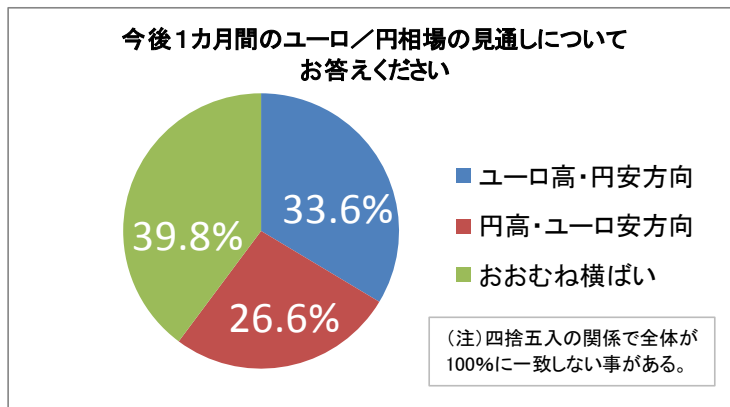


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

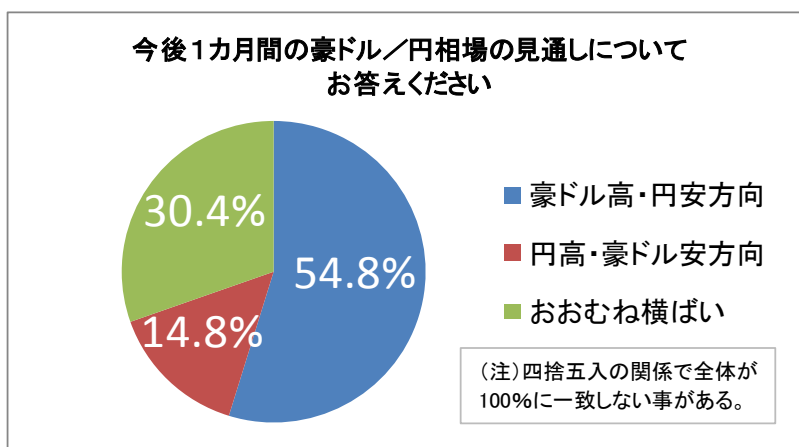
問3: 今後1か月間のユーロ/円相場の見通しについてお答えください

「今後1か月間のユーロ円相場の見通し」については、「ユーロ高・円安方向」と答えた割合が33.6%であったのに対し、「円高・ユーロ安方向」と答えた割合が26.6%となった。この結果、「ユーロ円予想DI」は+7.0%ポイントとなり、5カ月ぶりのユーロ高・円安予想となった。インフレ抑制のために、欧州中銀(ECB)が早期利上げに動くとの観測に支えられ、FX投資家層にユーロ先高観が芽生えつつある様子がうかがえる。もっとも、「予想DI」のプラス幅は1ケタにとどまり、「おおむね横ばい」を予想する向きが4割近くを占めるなど、周縁高債務国の財政問題などからユーロの上昇には懐疑的な見方も少なからずあるようだ。※過去のユーロ円予想DIの推移はP8-9に掲載。



問4: 今後1か月間の豪ドル/円相場の見通しについてお答えください

「今後1ヶ月間の豪ドル円相場見通し」については、「豪ドル高・円安方向」と答えた割合が54.8%であったのに対し、「円高・豪ドル安方向」と答えた割合が14.8%となった。この結果、「豪ドル円予想DI」は+40.0%ポイントと、6カ月連続で豪ドル高・円安方向となり、「予想DI」のプラス幅も前回調査の+12.5%から大きく拡大している。1月に大洪水やサイクロンが襲ったにもかかわらず、豪準備銀行(RBA)は経済見通しを上方修正するなど、同国の利上げペースに大きな変更は無いとの見方が強まった事が、FX投資家の豪ドル高予想につながったようだ。※過去の豪ドル円予想DIの推移はP8-9に掲載。

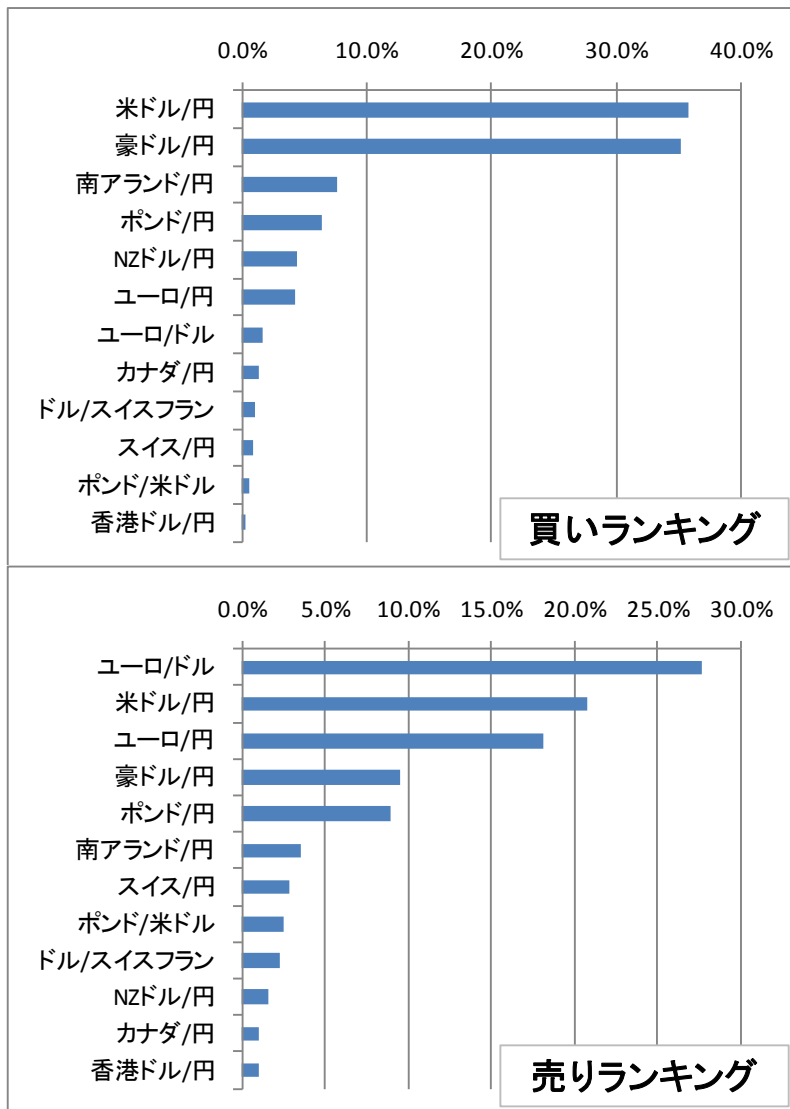


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問5: 今後、注目の通貨ペアについてお答えください

「今後注目している通貨ペア」について尋ねたところ、「買い」で注目されている通貨ペアは、1位ドル円(35.8%)、2位豪ドル円(35.2%)、3位ランド円(7.7%)、4位ポンド円(6.5%)、5位はNZドル円(4.5%)となった。一方、「売り」で注目されている通貨ペアは、1位ユーロドル(27.7%)、2位ドル円(20.8%)、3位ユーロ円(18.1%)、4位豪ドル円(9.6%)、5位ポンド円(8.9%)となった。「買い」で注目の通貨ペアでは、調査開始以来、ドル円と豪ドル円が1位と2位を占める結果が続いており、この上位2通貨ペアの合計回答割合は、今回も70%超に達した。また、「買い」で注目の通貨ペアの第3位には、ランド円が前回調査の第6位(4.4%)から順位を上げた点が興味深い。北アフリカ・中東情勢緊迫化の影響から、今年に入って大きく下落していたランド円は、調査期間中にはやや持ち直す動きが見られており、FX投資家層の高金利・資源国通貨に対する関心の高さがうかがえる結果となった。

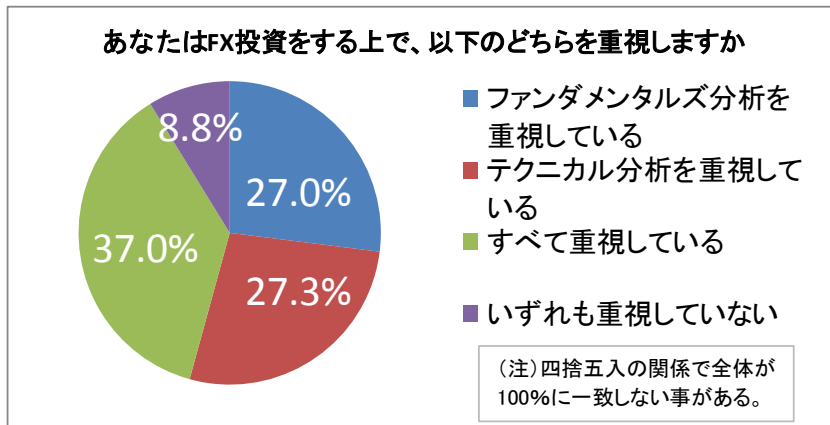


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

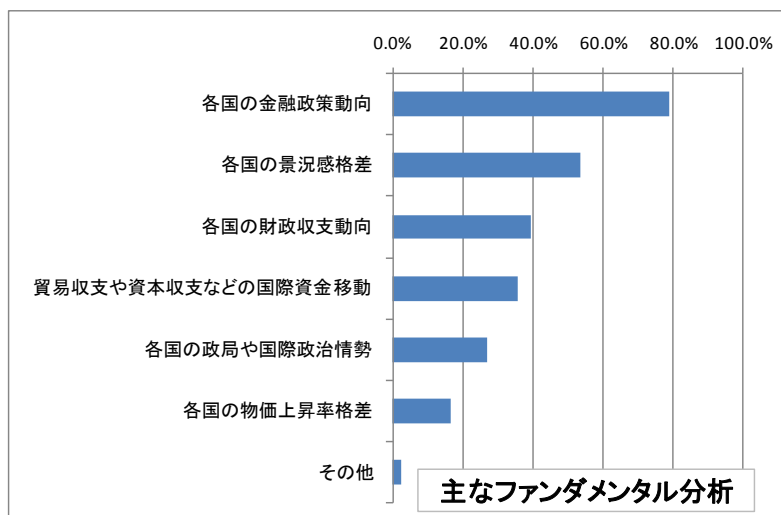
問6: あなたはFX投資をする上で、以下のどちらを重視しますか?

「FX投資の際に重視する分析手法」については、「ファンダメンタルズ分析を重視する」と答えた割合が27.0%であったのに対し、「テクニカル分析を重視する」と答えた割合が27.3%と、ほぼ拮抗する結果となった。また「すべて重視している」と答えた割合が37.0%と引き続き最も多く、「いずれも重視していない」は8.8%にとどまった。調査開始以来、回答割合に顕著な変化は見られず、FX投資家の分析手法に対するスタンスはほぼ確立されていると言って良さそうだ。



問7: ファンダメンタルズ分析では何を主に活用していますか?

「ファンダメンタルズ分析で主として活用する相場変動要因」について複数回答可として尋ねたところ、「各国の金融政策動向(79.0%)」と答えた割合が最も多く、「各国の景況感格差(53.6%)」、「各国の財政収支動向(39.5%)」、「貿易収支や資本収支などの国際資金移動(35.8%)」、「各国の政局や国際政治情勢(27.1%)」、の順に続いた。順位や回答割合についても、前回調査から大きな変化は見られない。ファンダメンタルズ分析で活用する相場変動要因を質問項目に加えて、1年以上になるが、「金融政策動向」や「景況感格差」といった基本的な要因に注目するFX投資家が多数を占める傾向に変化はないようだ。

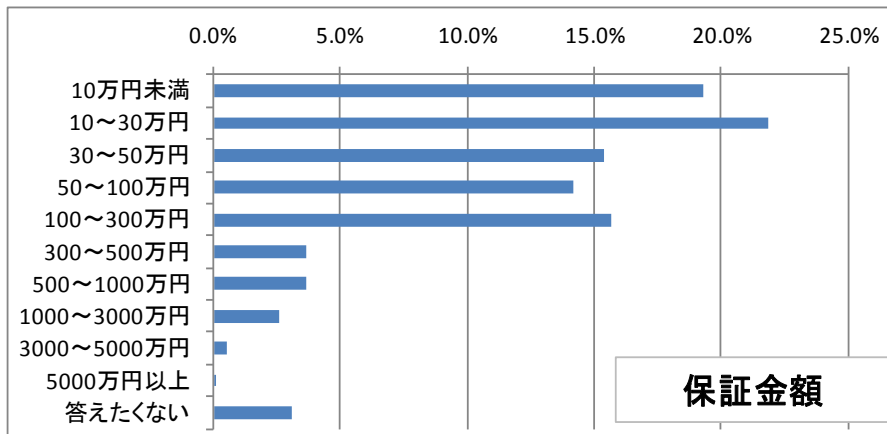


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

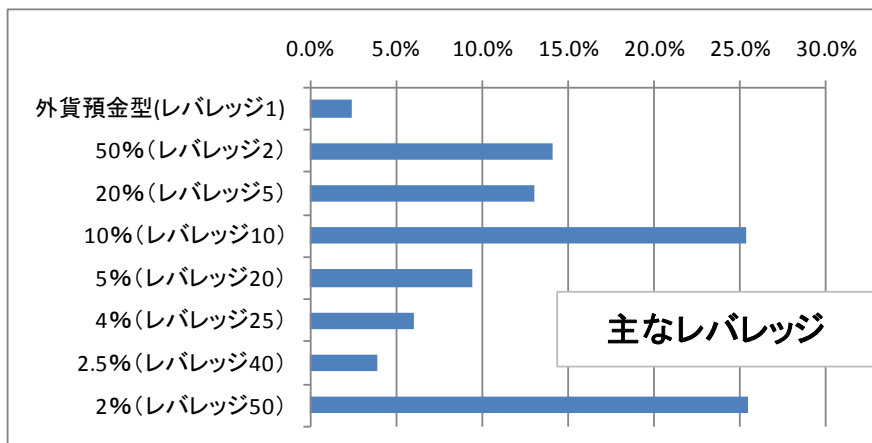
問8: FX取引の際の保証金の額についてお答えください

「FX取引の際の保証金の額」について尋ねたところ、「10～30万円」と答えた割合が21.9%と最も多かった。以下、「10万円未満(19.3%)」、「100～300万円(15.7%)」、「30～50万円(15.4%)」、「50～100万円(14.2%)」となった。小額の保証金で取引を行うFX投資家が多数を占める傾向に調査開始以来大きな変化は見られないが「10万円未満」が前回調査の26.1%から減少した一方で、「10～30万円(前回20.0%)」や「30～50万円(同13.5%)」が微増となっており、小口FX投資家層がやや保証金を増やしたうえで取引を拡大させ始めている可能性も感じられる結果となった。



問9: FX投資の際、主に何倍のレバレッジを活用していますか？

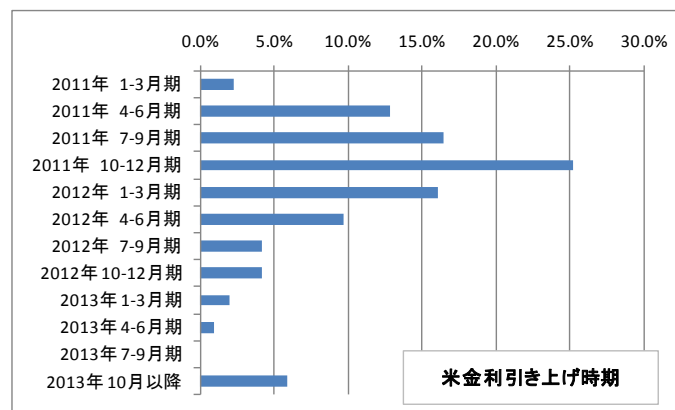
「FX投資の際に主として活用している保証金率(レバレッジ)」について尋ねたところ、「2%(レバレッジ50)」と答えた割合が25.5%と最も多く、以下「10%(レバレッジ10)」が25.4%、「50%(レバレッジ2)」が14.2%、「20%(レバレッジ5)」が13.1%、「5%(レバレッジ20)」が9.4%と続き、前回調査同様「2%(レバレッジ50)」と「10%(レバレッジ10)」で約半数を占める結果となったが、昨年8月のレバレッジ規制導入後「2%(レバレッジ50)」が始めてトップに立った。またその回答割合も昨年8月から11月には20%前後で推移していたが、昨年12月以降は25%前後まで増加している。こちらも、FX投資家層が、高レバレッジを活用して取引を拡大し始めている可能性を示唆する結果となった。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

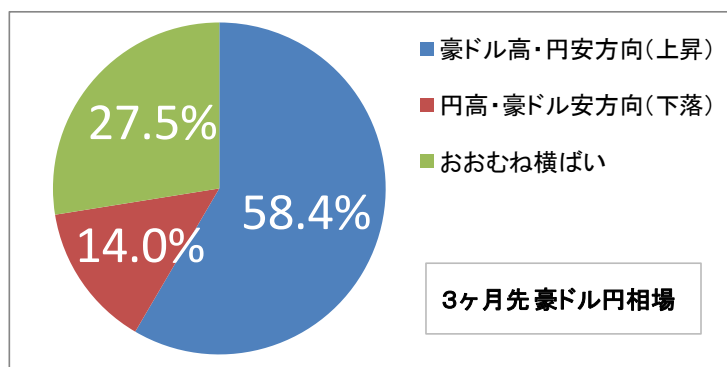
問10: 米連邦準備制度理事会(FRB)による、政策金利の引き上げの時期は？(ひとつだけ)

今月の特別質問項目として「米連邦準備制度理事会(FRB)による政策金利引き上げの時期は？(ひとつだけ)」と尋ねたところ、「2011年10-12月期」と答えた割合が25.3%と最も多く、以下「2011年7-9月期(16.5%)」、「2012年1-3月期(16.1%)」、「2011年4-6月期(12.8%)」、「2012年4-6月期(9.7%)」と続き、FX投資家の米国の利上げ時期の予想は2011年後半から2012年前半に集中している。その理由について自由記述形式で尋ねたところ、「量的緩和第2弾(QE2)終了後、半年ほど様子を見てから利上げ」、「雇用の回復が早くても今年後半になるから」などが挙げられていた。また、2012年後半以降の利上げを予想した向きからは「大統領選終了までは利上げできない」とする意見も目に付いた。約1年前の2010年1月(第8回調査)でも同様の質問をしたが、その際最も多かった予想は「2011年10-12月期」であった。この見通しは残念ながら外れてしまった事になるが、今回はどうであろうか。



問11: 今後3カ月間の豪ドル/円相場の見通しについてお答えください(ひとつだけ)

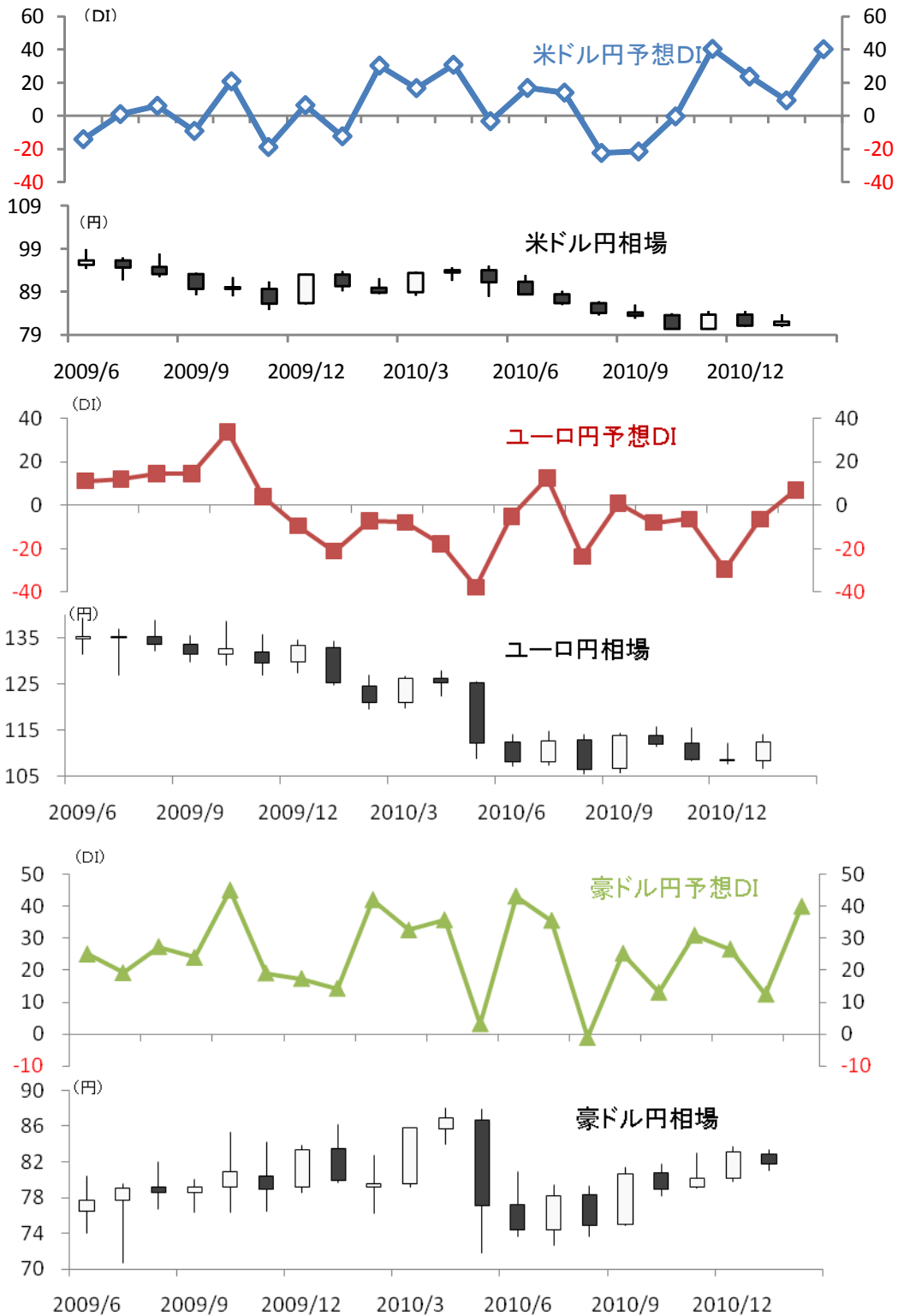
今月のもう一つの特別質問項目として「今後3カ月の豪ドル/円相場の見通しにつ(ひとつだけ)」と尋ねたところ、「豪ドル高・円安方向」が58.4%と過半数を占め、次いで「おおむね横ばい」が27.5%、「円高・豪ドル安方向」は14.0%にとどまった。問4の結果から、FX投資家は短期的に豪ドル強気の姿勢が示されたが、中期的な見通しはそれ以上に強気なものとなっており、本邦個人投資家層の豪ドル買い意欲の高さを改めて認識させられる結果となった。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【付表: 主要3通貨ペア予想DIと月足の推移】



(出所) 外為どっとコム総合研究所

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【今後の調査実施計画及び公表方針】

本調査も第21回目となりました。前月との対比での時系列比較は徐々に可能になり始めていますが、開始後1年半以上が経過し、前年同期との比較も徐々に可能になってきましたが、まだ十分な時系列データの蓄積は進んでおりません。このため、現時点では統計分析に深みを持たせるために必要不可欠な長期間に渡る時系列比較を十分に提示することはできていませんが、今後、毎月定点観測で実施する調査結果の蓄積が進むにつれて、DIの時系列比較等から見出せるFX投資家の相場観の変化やその傾向などの把握も可能になってくることが期待されます。

毎月の本調査においては、公表扱いとしている質問項目及び回答結果の他に、「投資家の属性」、「取引頻度」、「取引規模」、「取引時間帯」、「投資選好」など、投資家実態を把握するために必要な各種の質問項目も設けて集計しています。それらの回答結果を用いた投資家の実態報告や属性別のクロス・セクション分析等については、当研究所が1年に1回、毎年年初以降に公表する「外為白書」で紹介する予定です。

【付表：主要3通貨ペア予想DIの推移】

		米ドル/円			ユーロ/円			豪ドル/円		
		米ドル高	米ドル安	DI	ユーロ高	ユーロ安	DI	豪ドル高	豪ドル安	DI
2009年	6月	21.0	35.2	-14.2	38.4	27.2	11.2	48.8	23.7	25.1
	7月	34.6	33.6	1.0	40.2	28.2	12.0	45.5	26.3	19.2
	8月	36.3	30.3	6.0	41.8	27.3	14.5	50.7	23.3	27.4
	9月	32.1	41.3	-9.2	38.0	23.5	14.5	45.1	21.1	24.0
	10月	45.5	24.7	20.8	51.1	17.4	33.7	60.5	15.4	45.1
	11月	22.9	41.8	-18.9	33.6	29.7	3.9	44.6	25.5	19.1
	12月	37.6	31.2	6.4	27.8	37.3	-9.5	41.4	24.0	17.4
2010年	1月	28.5	40.9	-12.4	24.6	45.7	-21.1	41.7	27.4	14.3
	2月	49.9	19.6	30.3	31.6	38.7	-7.1	56.9	14.8	42.1
	3月	37.6	20.9	16.7	30.3	38.2	-7.9	50.0	17.4	32.6
	4月	50.5	19.7	30.8	26.1	44.0	-17.9	53.3	17.5	35.8
	5月	33.9	37.2	-3.3	21.4	59.1	-37.7	40.3	37.1	3.2
	6月	35.9	19.1	16.8	32.9	38.0	-5.1	58.7	15.5	43.2
	7月	40.8	26.8	14.0	41.8	29.2	12.6	53.9	18.3	35.6
	8月	26.0	48.5	-22.5	25.2	48.7	-23.5	34.5	35.6	-1.1
	9月	22.3	43.9	-21.6	36.7	35.8	0.9	47.8	22.5	25.3
	10月	37.3	37.7	-0.4	29.3	37.3	-8.0	38.9	25.8	13.1
	11月	57.4	17.0	40.4	28.2	34.6	-6.4	48.0	17.0	31.0
	12月	42.9	19.2	23.7	19.2	48.7	-29.5	44.0	17.4	26.6
2011年	1月	33.0	23.7	9.3	31.8	38.2	-6.4	37.3	24.8	12.5
	2月	53.2	13.0	40.2	33.6	26.6	7.0	54.8	14.8	40.0
	3月									

(出所) 外為どっとコム総合研究所

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com